

## 1 月例会レジュメ

(H20.1/18(金)18:00~20:00開催)

場所 技術士会荻手ビル5階 AB 会議室

参加者 21 名(講師鈴木氏及び来賓竹下専務理事を含む)

### 1. 日本原子力技術協会(以下原技協)の役割と活動について

講演者: 日本原子力技術協会専務理事 鈴木康郎氏

原技協の役割、活動についての説明及び原子力をめぐる諸情勢と今後の課題について鈴木氏より説明があった。原技協は米国の INPO (Institute of Nuclear Power Operations 原子力発電運転協会) のように、原子力施設の自主保安のレベル向上のため、規制側と原子力事業者の両者から独立した立場から原子力産業界を支援し、活性化させる役割を持つ。そのため、下記の 4 本を活動の柱として、原子力自警団としての意識を持ち活動している。すなわち、



情報の収集・分析・活用(勧告等文書発行、原子力施設情報公開ライブラリー(NUCIA)の運用)、安全文化の推進(ピアレビューの的確な実施、安全文化の浸透・向上活動)、民間規格基準の整備促進、原子力技術者の育成・維持、が活動の柱である。

日本の原子力の現状はトラブル・不祥事 規制強化 プラント稼働率低下・被ばく線量UP 信頼低下という負のスパイラル状況で厳しい。しかし、TMI後の米国のように社会からの信頼性を回復・向上するための自助努力を行うことで、スパイラルアップし、正のスパイラルに移行できるとして、そのための原技協の取り組みを説明された。

### 2. 意見交換 原技協と部会の協力について

林部会長より当部会の活動説明として、技術士の制度活用を提言したこと、発電所の総点検の不祥事を捉えての技術士活用の緊急提案を保安院長にしたこと、佐川幹事からは、米国PE、他部門技術士資格の活用例(鉄道)の紹介、桑江幹事からは、原技協と当部会の設立趣旨や取り組みの共通点から、協働の可能性を示唆する発表がなされ、その後、意見交換がなされた。(詳細内容は別紙)



原技協としては、協働は可能であり、重要なことと考えている。しかし、技術士会としても、技術士が参画することによってどのようなメリットや優位性があるのかをしっかりと説明していくことが必要とのコメントをいただいた。また、今回の講演を、原技協と技術士会双方の交流の機会として捉え、今後も年2回程度定例の会合を持つことで了解された。